

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和5年6月19日（月）14時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・ みえのお祭りを未来へ伝える「みえ祭（まつり）協力隊」を募集します
- ・ 「オンラインの居場所の魅力を知ろう！」メタバース体験会を実施します

質疑事項

- ・ みえのお祭りを未来へ伝える「みえ祭（まつり）協力隊」を募集します
- ・ 「オンラインの居場所の魅力を知ろう！」メタバース体験会を実施します
- ・ 令和6年度三重県立高等学校入学者選抜実施日程・三重県立特別支援学校入学者選考実施日程について

発表項目

○ みえのお祭りを未来へ伝える「みえ祭（まつり）協力隊」を募集します

1点目は、みえのお祭りを未来へ伝える「みえ祭（まつり）協力隊」の募集についてです。最初に申し上げておきたいのですが、この事業は昨年度の県民提案事業です。つまり、県民の方々のアイデアから予算化された事業です。三重県では、さまざまな「祭」が行われているのですが、コロナ禍の影響や「祭」の担い手不足などで継承が困難となりつつあります。そこでこのたび、「祭」の魅力を子どもたちならではの視点で記録し、発信する「みえ祭（まつり）協力隊」を募集させていただきます。この「みえ祭（まつり）協力隊」は、県内5つの「祭」を題材に、実際に「祭」に参加したり、「祭」の道具に触れる体験型の調査や担い手の人に取材を行う聞き取り型の調査を行ったりするものです。参加した児童生徒が調査結果をまとめまして、今年度作成する「祭」の特設サイトに公開し、県内の「祭」関係者が集まる「みえ祭会議」で発表してもらう予定でございます。資料の2の（2）のところに、今回調査の対象となります「祭」を5つ列挙してあります。「みえ祭（まつり）協力隊」に参加する児童生徒は、それぞれがこの5つの「祭」のうちの一つを調査することになります。画面の方も併せてご覧いただきたいのですが、5つの「祭」、まず一つ目が大淀（おおよど）の祇園祭（ぎおんまつり）です。山車が区内を練り歩き、夕刻になると、漁船上に乗せて大淀港に浮かべる海上渡御（かいじょうとぎよ）が行われ、夜は点火方法が秘伝とされる花火大会が行われます。二つ目、伊賀市の植木神社の祇園祭です。巡行行列は、「竹幣（ちくへい）」、10基の大花、母衣花（ほろばな）からなる「祇園花」、2基の神輿、3基の楼車（だんじり）と称する曳山からなります。三つ目が鈴鹿市の伊奈富（いのう）神社の獅子神楽（ししかぐら）です。4頭が一緒に舞う獅子や神職ほか20名が携わる舞は、

「ダンチョ」「中起こし」等7曲と「おいたて」「田遊び」が行われることもあります。四つ目は、四日市市の東日野・西日野の大念仏です。西覚寺から顕正寺へ、日野神社から西覚寺へ大太鼓と大鉦を打ち鳴らして歩きます。五つ目は、松阪市の獵師のかんこ踊です。シャグマと呼ぶ花冠をかぶり、紺のハッピー、手甲、脚絆を着た4人の踊り子と打ち手が、やれやれ音頭、ふれ音頭、道中音頭を初盆供養として踊ります。なお、この5つの「祭」を選定した理由ですけれども、まずは、児童生徒が関わるということで、夏休み期間に開催される無形民俗文化財に、的を絞りました。あとは、事前に各市町へ照会をかけまして、推薦のあったものを優先的に、なるべく地域が重ならないように選んだということです。この5つの「祭」の中の一つだけ、伊奈富神社の獅子神楽は、冬の「祭」なのですが、夏休み期間中、本事業に協力できるとのお話をいただきましたので、選定したものであります。資料の裏面にいきまして、(4)「みえ祭会議」というところですが、ご覧のように、12月23日に三重県総合文化センターにおいて、児童生徒が調査した内容について成果発表会を行う予定です。募集については、資料3の参加児童生徒の募集のところをご覧ください。県内在住または保護者の帰省等により、希望のある「祭」の調査日に県内に滞在できる小・中・高校生10名前後を募集いたします。応募者多数の際には抽選となります。

○ 「オンラインの居場所の魅力を知ろう！」メタバース体験会を実施します

続きまして、発表項目2点目ですけれども、「オンラインの居場所の魅力を知ろう！」メタバース体験会についてです。皆さんもすでにご存知だと思いますが、三重県教育委員会では、不登校の中学生や高校生等が、他者や社会とつながるきっかけを得たり、自身の興味・関心の幅を広げたりできるように、オンラインの居場所づくりに取り組んでいます。今回は新たに、メタバースを一般公開いたしまして、体験会を実施することとしました。1人でも多くの不登校の状況にある生徒の皆さんに、居場所として活用いただけるように、保護者の方や教育関係者、不登校支援に携わる方々に、ぜひこの活動を知っていただきたいという思いで開催するものです。日時は6月27日火曜日の午後を予定しています。対象者はまず一番参加していただきたいのが一つ目にあります、オンラインの場所に登録している生徒の保護者、不登校の状況にある中学生、高校生の保護者の皆さんです。そして、市町の教育支援センターの職員や中学校・高校の教職員。民間施設団体で不登校支援に携わっている方の参加も期待しています。そして、不登校支援の取組に興味・関心がある方ということで、広く皆さんの参加をお待ちしています。この取組を体験いただくと、多くの人に伝える、ぜひ橋渡しになっていただければと思う次第でございます。事前の参加申込みの必要はありません。体験会の案内サイトからお入りください。実施内容は、イベント模擬体験としてのクイズ大会や、指導員、大学生スタッフ等との交流などです。では画像を見ていただいて、少し詳しい内容を担当から説明させます。

(動画視聴)

ご覧ください。今、私が動かしているのは、この参加者と三重ファシリテーターの2人が

入っている状態です。環境はオンラインの居場所で普段でも使っている平面上のメタバースです。今動かしているところに透明の半円がありますが、この範囲内で声が届き、離れていけば、今マイクオフですので音は出ませんが、近づいて行ってマイクをオンにして話す、あるいは画面共有をする。離れれば、遠くの方は分からないという形のメタバースです。今回、会場のメイン会場、先ほどお伝えしましたクイズ体験で、例えば、メタバースこれはコマみたいなものなので、普段イベントでも使っているものなのですが、4択クイズをみんなで1番の人は1番のところへ、2番の人は2番のところへ行って、正解したらハートを出したり、手を上げたり、グッドを出したり、この位置関係とアイコンのリアクションで、文字や言葉でなくても交流ができます。もちろんチャット機能などもあります。会場にはこのメイン会場のほか、今までのオンラインの居場所でやっていた動画を見ていただいて、例えばこれは警察音楽隊の演奏会を行った際の録画です。あとはこの「こもれび」の様子をメタバース内で再現していきまして、こちらで指導員の方と交流していただく、交流のご案内などもできるかと思います。

発表項目に関する質疑

○ みえのお祭りを未来へ伝える「みえ祭（まつり）協力隊」を募集します

(質) 募集対象になる生徒というのは、県内在住の小・中学生以外に、県外在住で、帰省等でその「祭」に参加できる児童生徒も参加可能という、県内在住には限らないということですね。

(答) そうです。ある程度三重県に関わりがある方でしたら、是非参加していただければと思います。

(質) 「みえ祭（まつり）協力隊」というのは確か県民の声を募集したという、これ提案されたのは高校生でしたか。

(答 社会教育・文化財保護課) 中学生からのご意見です。

(質) 当時の中学生の方からの。

(答 社会教育・文化財保護課) そうです。中学校全体で提案いただいた中の1つにその名称がありましたので、今回使わせていただいております。

(質) 名前のまま。

(答 社会教育・文化財保護課) そうです。

(質) 今のお話の関係で、その中学生からの提案ということですけど、そのまま活かした形なのか手を加えたのか。

(答 社会教育・文化財保護課) 中学生の皆さんからの声だけではなくて、一般の方からもアイデアをいただいていますので、それを編集するような形で今回事業としてなっております。特にこの「みえ祭（まつり）協力隊」については、中学生の方の提案をそのまま活かすような形で、少し事業にブラッシュアップした形になります。

(質) 多分、その提案された時というのは今もそうですけど、コロナ禍の中で色々な活動が

できなかったということでの提案だと思うのですが、どんな思いで、みたいなことをお教えいただける範囲で簡単にいただければ。

(答 社会教育・文化財保護課) 学校の授業の一環で取り組まれた中の声ということでしたので、そこまで詳しい思いまでは分かりかねます。

(質) 今回こういう「みえ祭(まつり)協力隊」というのは初めてやられるということですか。

(答) そうです。

(質) これの取り組まれる意義といますか、どう感じているのか教えてください。

(答) これは取り組む子どもにとっても、それから取材を受ける「祭」側にとっても意義があるウィンウィンの取組だと思っています。子どもは「祭」を取材することによって、「祭」に対する愛着も湧きますし、ふるさとに対する愛着も湧きますし、今後、「祭」の担い手になっていただく可能性もありますし、とにかく地域での愛郷心と言うのですか、そういうのを育むことができると思います。それから、「祭」の場は当然、生徒が発信しますから注目もされますし、ネームバリューも上がりますし、一定の社会的な認知が高まると思いますので、「祭」が担い手不足で苦しんでいるところの一助になるのかなというふうに感じています。

(質) ユニークな取組だと思うのですが、生徒のところなのですけれども、ワークショップがあって、発表があって、発表があった後はどうなるのでしょうか。生徒さんが発表したことをもって、何か県の施策に活かすとか、あるいはその発表内容をアーカイブにして県民が見られるとか、どのような展開があるのでしょうか。

(答 社会教育・文化財保護課) この成果発表の内容も、今回この事業で作る特集サイトの方に反映する計画でおります。そして、この成果発表会自体を「祭」の関係者の方たちにご出席いただく予定にしておりますので、実際に取材対象になった「祭」の関係者以外の三重県内の関係者の方たちに、広くこの取組を知っていただいて、自分たちのお「祭」のその課題の解決方法の一つとしていただけるのではないかなと期待しております。

(質) 今回絞って5つになったと思うのですが、地域的にいうと例えば桑員の方ですとか東紀州ですとか、県内あまねくということにはなっていませんけれども、改めてなぜこの5つなのかというところで、もし一言あれば。

(答) 夏休み中の「祭」を一定対象にする中で、市町に推薦の依頼をしました。その中で、やっぱり担い手不足に苦しんでおられるとことか、結構熱意がこもった返事もいただいていますので、そういう向こうからの推薦を重く見ながら選んでおります。多分東紀州なんかはいろいろ有名な「祭」もありますけれども、冬のものが有名ですし、なかなか限定された中での選定にはなっています。

○ 「オンラインの居場所の魅力を知ろう！」メタバース体験会を実施します

(質) 今回はメタバースの一般公開ということになるのですが、以前までのオンラインの居場所づくりというところの取組というのは、どういうものがあるのか。

(答) 不登校の生徒ご自身が参加して、メタバース上で交流するというものをこれまでやっています。昨年度は16回実施しています、延べ117人が参加しました。活動内容としては、クイズ大会とか絵しりとりとか、ブースを分けてフリートークをしたり、短時間でできるトレーニングの紹介をしたり、MieMuの見学ツアーをしたり、そういう取組をしていました。

(質) 今回の新しいところというのは、保護者の方であったりとか、それ以外の取組に興味・関心がある方というのが対象になっているというところがポイントですか。

(答) そうです。さっき言いましたように、16回で117人ということは大体1回7人ぐらいの参加なので、もうちょっと広く知っていただいて、できるだけ活用していただければと思うことがありまして、それで保護者の皆さんや一般の方々に公開して、認知度を高めようという意図でございます。

(質) 単純な疑問なのですが、一般に広く公開して一度に何人までログインできるものなのでしょうか。このシステムに、例えば100人とか1000人とか1万人とか入ったら、つぶれちゃうようなことはないのでしょうか。

(答 生徒指導課) キャパとしては300人程度が入れます。

(質) 今回これをやることに対する期待を改めて教えてください。

(答) 期待は、オンラインの居場所というのは、不登校の子どもたちにとって、社会につながる、他人とつながる貴重な機会だと思います。できるだけ多くの方々に利用していただきたいものですから、まだまだ活用いただいている人数も少ないですので、しっかりと我々もPRするために、身近な保護者の方とか、不登校支援に取り組んでいらっしゃる方とかに見ていただいて、ぜひ口伝えで、いいものがあるよというふうに広げていただければなど、そういう思いをいたしております。

(質) あと、今年の4月から教育支援センター「こもれび」というのが開設されたと思うのですが、開設以来これまで大体何人ぐらいの方が利用しているのでしょうか。

(答 生徒指導課) 4月以降で新規登録された方が、5月末時点で4名です。昨年度から継続して登録されている方がみえますので、現時点で「こもれび」に登録されている方は5月末現在で30人です。

(質) オンラインの良さを知ってほしいというお話だと思うのですが、4年度からやられてきて手ごたえといいますか、参加者の方から何かいい反応が入ってきているというか、その辺りはどうでしょうか。

(答) 例えばチャットのみで対話をしていた生徒が音声で対話できるようになった等の変化が見られたという報告もございます。具体的な感想もいくつか届いていて、大学生のアバターに近づいていくと自分に向かって話してくれている気がして、実際に会話している感覚を得られて面白かった。対面での会話に緊張する子にとって良いと思うと

というような感想ですとか、交流したり動画を見たりして気になることがあったら、チャットで質問したり、自分のペースで動けるのが良かったという声ですとか、あるいは同じ教育支援センターの友達とメタバース上で話ができて良かった。遠足の話で盛り上がったので、自分も遠足に行きたいと思った等の声が届いておりまして、入って参加した方は、一定の充実感を得られていると思っています。

(質) 例えばですけど、実際に何人が参加して、例えば何人が満足したと言っているみたいな、そういう調査とかはされたりしていますか。

(答 生徒指導課) アンケートについては取っておりませんので、そういった数値は把握しておりません。

その他の項目に関する質疑

○ 令和6年度三重県立高等学校入学者選抜実施日程・三重県立特別支援学校入学者選考実施日程について

(質) 今日の教育委員会定例会事項の方ですけれども、例えば入試の選抜の日程に大きな変化があるとか変わったことは特にはないでしょうか。

(答) 大きな変化はありません。一番大きいのは、去年、前期選抜で前期追々検査というのをしていたのですけれども、コロナが5類になりましたので、前期の追々検査はしないというところが一番大きいと思います。あと通信制課程について、追検査とか志願変更の日程が記載されてなかったのですけれども、他の課程と同様に記載したということで、実質的な変更ではありません。

(質) オンライン出願も変わらないですね。

(答) そうです。

以上、14時21分終了